五高新聞

１　２　月　号

１２月３日（木曜日）

発行所　五島高校
発行責任　五島高校新聞部
編集　森憩

待望の『戴帽式』

看護師のタマゴ

灯火に照らされる戴帽生たち

五島高等学校衛生看護科の二年生第四十七回生は、二〇二〇年十月十三日（火）、戴帽式を迎えた。通常であれば二学年全員と衛生看護科一・三年生、教職員、そして保護者が見守る中執り行われるはずだったが、今回は新型コロナウイルスの影響により二学年全員の参加は見送りとなった。

ろうそくの火が灯され、会場となったメモリアルホールは温かい雰囲気で包まれた。生徒たちの緊張が合わさると、場が神聖な雰囲気に変わった。

―式次第―

一、開式の辞
二、戴帽の儀
三、校長式辞
四、来賓祝辞
五、三年生代表お祝いのことば
六、祝電披露
七、誓いのことば
八、校歌斉唱
九、閉式の辞

戴帽生の思い

戴帽生である二年六組の居村歩佳（いむらふかか）さんと中村玲奈（なかむられな）さんにインタビューをした。一つ目の質問は「戴帽式の前と後の気持ちの変化」についてだ。この質問に対し、「戴帽式の前は病院実習が始まるぞという実感がわかなかったが、戴帽式の後は実感がわくようになった」と答えてくれた。二つ目の質問は「式の最中にどんなことを考えたのか」で、「院長先生がいらしたからとても緊張した」「ろうそくの火は患者さんの命と一緒だから消さないように慎重に取り扱った」と答えてくれた。今後について、二人は、「ケアを行うとき、一つ一つの動作を行う声かけが少ないときがあるので、患者様への声かけを徹底したい」「患者様のケアをするときに臨機応変に対応できるようにしたい」と話した。二人の話を聞いて、彼女達の患者様に対しての誠意が感じられた。また全体の目標として、時間厳守、患者様の身のまわりの環境整備、ケアの時間を最小限にする、忘れ物をしない等があるようだ。戴帽式を経験した衛生看護科生はそれぞれが持つ目標を目指して、夢へと一歩近づいた。

緊張した様子の戴帽生

ナースキャップをいただく

五高新聞からのお知らせ

五島高校新聞部は現在二年生一名で活動しています。国語が苦手でも大丈夫です。是非、私たちと一緒に新聞を作りませんか？火曜日と水曜日と木曜日に活動しています。興味のある人は二年生の新聞部まで！

衛看大好き原口先生

戴帽式に参加された原口先生に、戴帽式の感想についてインタビューしてみた。

先生から見た式中の生徒はどのような様子でしたか？

原口先生
「厳粛で厳かでした」

式に参加して、どのように感じましたか？

原口先生
「医療の現場に立つ人の覚悟を感じましたね」

戴帽式を終えた生徒たちへメッセージをお願いします。

原口先生
「ナイチンゲールの心を受け継ぐものとして、患者さんに対して個別性のある医療を常に考え続けて、立派な看護師に成長してください。」

お忙しい中、二学年主任の原口先生にインタビューを受けていただいた。終始優しげな笑みを浮かべる先生からは、戴帽生に対しての期待と成長を願う思いが感じ取れた。

第四十七回戴帽生

・江口　陽梨
・中村　玲奈
・芳野　　優
・山下　真優
・荒木　　彩
・小柳　七海
・野原　輝理
・平木　愛華
・桑原　彩菜
・山田　しずく
・出口　尚楓
・中島　惟衣
・濵端　桃奈
・髙見　日花里
・谷川　真菜
・三田　萌々華
・山口　愛月
・居村　歩佳
・池本　未鈴
・松本　桃花
・小田　乃ノ佳

以上21名

◎戴帽生総数 1529名（本年度戴帽生を含む）

ナイチンゲール宣誓

われはここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん。

わが生涯を清く過ごし、わが任務を忠実に尽くさんことを。

われはすべて毒あるもの、害あるものを絶ち、悪しき薬を用いることなく、また知りつつこれをすすめざるべし。

われはわが力の限りわが任務の標準を高くせんことを努むべし。

わが任務にあたりて、取り扱える人々の私事のすべて、わが知り得たる一家の内事のすべて、われは人に洩らさざるべし。

われは心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。